

但馬地方の昆虫相に関する 文献及び資料

高橋 匡

但馬地方の昆虫相について公表された資料の中で、私が知っている一番古いものは、兵庫県生物学会の会誌「兵庫生物」第2巻3号(1953)に掲載された、岩田久二雄・奥谷禎一・永富昭・中根猛彦氏らによる「氷ノ山の昆虫」と称する報告である。その資料も火災で焼失したので、くわしく述べることはできないが、記憶によれば簡単な採集行の覚え書きであって、挙げてある昆虫の種類もわずかであるが、「ブナの朽木からルリクワガタを採集した」との記述が渺に鮮明に焼きついている。

辻啓介氏は「兵庫生物」第6巻3号(1972)に「兵庫県氷ノ山のカミキリムシ」という報告をのせ、その中で、「氷ノ山のカミキリムシについての戦前の報告はほとんどみられないが、関西の昆虫採集家の間では氷ノ山は好採集地としてよく知られていたらしい」と述べ、黒佐和義・岡田節人両氏の採集記録(1940年ごろ)に約60種近い氷ノ山のカミキリ目録がつけられていたことを報じている。高橋寿郎氏によれば、出石、生野などのかなり古い記録もあるようである。しかし、それ等の資料は今のところ目にする目途が立たないので、1950年代以降の資料で手もとにあるものを中心にしてまとめてみたい。従って、これはあくまでも覚え書きであって、今後慎重に資料の探索を続けて、より完全なものに近づきたいと願っている。

総合目録・採集記録

1 奥谷禎一：但馬島ノ山の昆虫。兵庫生物, Vol. 2, No. 4~5, (1954)

これは1953年8月18日、兵庫県生物学会の主催でおこなわれた採集会の簡単な記録で、時期が遅いせいもあってか、記録されている種は少なく、半翅目セミ科6種、鞘翅目カミキリムシ科5種、膜翅目ハバチ科5種、そのほか、双翅目でトワダオオカの記録がある。奥谷氏は現在神戸大学農学部教授で専門はハバチ科である。

2 山本義丸：氷ノ山の昆虫。NATURA, No. 11 (1954)

これは1954年7月21~24日、柏原高校生物研究会の採集会記録で

ある。記録されているのは、鞘翅目48種、鱗翅目のチョウ8種、ガ31種、脈翅目2種、半翅目5種である。山本氏は現在大阪教育大学附属高校教頭で専門はヤガ科である。

3 栢原高校生物研究会：氷ノ山の昆虫について、NATURA No.13 (1956)

これは1955年8月16～19日、栢原高校生物研究会の採集会記録で、大槻、安達、杉上、足立、大垣の諸君がまとめたものである。記録は鞘翅目24種、鱗翅目チョウ8種、ガ34種。

4 大槻孝司：氷ノ山、妙見山の昆虫、NATURA No.14 (1957)

これは1956年8月10～13日、栢原高校生物研究会の採集会記録で、記録は鞘翅目64種、鱗翅目チョウ30種。

5 栢原高校生物研究会：氷ノ山の昆虫及び植物、NATURA No.15 (1958)

これは1957年7月21～24日、栢原高校生物研究会の採集会記録で、浅葉、安達、十河、藤井、待場の諸君がまとめたものである。記録は鞘翅目65種、鱗翅目チョウ6種、ガ70種余。

6 栢原高校生物研究会：氷ノ山特異号、NATURA No.16 (1959)

これは栢原高校生物研究会が1954年から1958年まで、毎年7、8月に氷ノ山で採集会をおこなって調査した結果をまとめたものであって、次のような内容になっている。

- (1) 井上三義、但馬氷ノ山の植物、シダ植物8科19種、裸子植物1科1種、被子植物57科146種。
- (2) 中尾淳三、氷ノ山附近の蝶類、8科98種。
- (3) 山本義丸、氷ノ山の蛾類、氷ノ山の蛾類464種中、氷上郡未記録のもののみ、11科105種。
- (4) 高橋 匡、氷ノ山の甲虫、44科279種。
- (5) 井上三義、初夏の蘇武・瀨川・妙見山植物採集行略記、約100種の記録あり。
- (6) 村上雅昭、蘇武・瀨川・妙見の昆虫、鞘翅目20科70種、鱗翅目チョウ類11種。

7 村上雅昭：扇ノ山の甲虫、NATURA No.17 (1960)

これは1959年7月26～29日、栢原高校生物研究会の採集会記録である。鞘翅目27科108種が記録されている。

8 足立 勲：扇ノ山採集記、NATURA No.18 (1961)

これは1960年7月25～28日、栢原高校生物研究会の採集会記録である。鞘翅目32科134種が記録されている。

9 湯浅浩史：扇ノ山と昆虫相、兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)

これは1958年から1960年まで、4回にわたって兵庫農大生物研究

部が畑ヶ平開拓村をベースキャンプとして、6～7月に採集会をおこなった結果を概括したもので、記録は目、科ごとに別にまとめられている。詳細は、チョウ52種（辻啓介）、ガ31種（畑中照）、ゾウムシ類30種（鈴木清明）、ハナノミ類7種、ホタル・バニホタル10種（辻啓介）、カミキリムシ52種（多田泊二・辻啓介）、コガネムシ類35種（湯浅浩史）が記録されている。続いて発行された同誌第2号（1961）には、コガネムシ類9種（湯浅浩史）、カミキリムシ54種（辻啓介）、チョウ14種（辻啓介）が追加され、第3号（1963）にはハバチ類19種（内藤親彦）、チョウ4種（黒田礼文）、コガネムシ類9種（湯浅浩史）、ゴミムシ類31種（岸田剛二）、カメムシ5種（辻啓介）が追加され、更に辻啓介氏が「但馬扇ノ山甲虫目録(1)」として53科329種を記録している。

10 西村 登：但馬円山川昆虫誌(上)、関宮町教育研修会（1960）

これは八木川の底生昆虫の生態調査報告であるが、たとえば「関宮なかり付近における底生昆虫の分布」と称する表には、トビケラ目11種、カゲロウ目11種、カワゲラ目6種、双翅目5種、鞘翅目、半翅目、脈翅目各1種の記録があり、「米ノ山溪谷の木生昆虫」の項には毛翅目19種、カゲロウ目12種、カワゲラ目10種、双翅目6種、鞘翅目2種、脈翅目2種の記録がある。

11 西村 登：米ノ山溪谷の木生昆虫、兵庫生物 Vol.3 No.5（1959）

上記の資料と同じものである。

12 西村 登：米ノ山山麓の滝の動物相、兵庫生物 Vol.4 No.2（1961）

トビケラ目13種、カワゲラ目5種、カゲロウ目9種、双翅目4種、脈翅目、鞘翅目各1種。

13 高橋 匡：出石郡昆虫目録(第1報)、VITA No.1（1964）

1963年度出石高校1年生の夏休み宿題を中心にまとめたもので、蜻蛉目7科42種、鞘翅目51科401種が記録されている。

14 高橋 匡：出石郡昆虫目録(第2報)、VITA No.2（1965）

1963年度、64年度出石高校1年生の夏休み宿題を中心にまとめたもので、膜翅目73種、半翅目64種、鞘翅目42種、鞘翅目51種が記録されている。

15 興谷禎一：扇ノ山附近の昆虫相について、扇ノ山周辺の自然保護（1972）

高橋 匡：扇ノ山の昆虫相—自然保護の立場から—、同上。

どちらも扇ノ山の昆虫相の特徴と自然の保護について所有を述べたものである。

16 奥谷禎一：中国山脉東端の昆虫相，東中国山地自然環境調査報告(1974)

1973年度に岡山、鳥取、兵庫の三県合同でおこなわれた中国山地自然環境調査報告の一部で、調査地域は米ノ山、扇ノ山、鉢伏山、妙見山、蘇武岳、三室山、船越山を中心とする地域である。蜻蛉目34種、半翅目110種、鱗翅目が類571種、千ヨウ類111種、膜翅目(広腰亞目)153種、鞘翅目1410種が記録されている。

17 高橋 匡：豊岡高等学校昆虫標本目録(第1~2報)。(1975)

1973年度豊岡高校生物部および1年生の夏休み宿題を中心にまとめたものが第1報で、鞘翅目510種、半翅目84種、膜翅目56種、蜻蛉目32種、鱗翅目158種が記録され、第2報は1974年度分を追加したもので、鞘翅目116種、半翅目12種、膜翅目2種、鱗翅目12種、双翅目6種となっている。

18 高橋 匡：豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報)。(1975)

1975年度分の追加。鞘翅目127種、半翅目24種、膜翅目27種、蜻蛉目15種、鱗翅目79種、双翅目30種、長翅目3種が記録されている。

19 高橋 匡：豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報)。(1976)

1976年度分の追加。鞘翅目139種、半翅目27種、鱗翅目19種、膜翅目18種、双翅目12種、直翅目9種、脈翅目5種、蜚蠊目3種、長翅目2種、禿翅目2種、啮虫目1種が記録されている。

鱗翅目

千ヨウ亜目

1 山本広一：但馬米ノ山夏の蝶，兵庫生物 Vol.3 No.1~2 (1955)

1937年から1954年まで主として7~8月の調査結果で、セセリ千ヨウ科7種、アゲハ千ヨウ科7種、シロ千ヨウ科5種、シジミ千ヨウ科17種、テング千ヨウ科1種、マダラ千ヨウ科1種、タテハ千ヨウ科21種、ジャノメ千ヨウ科9種、計67種が記録されている。

2 吉阪道雄：米ノ山の蝶類，兵庫生物 Vol.3 No.1~2 (1955)

1954年7月12~13日、27~29日の採集記録。アゲハ千ヨウ科2種、シロ千ヨウ科2種、ジャノメ千ヨウ科5種、タテハ千ヨウ科11種、シジミ千ヨウ科6種、セセリ千ヨウ科4種、計30種が記録され、このほかに情報として10種あげてある。

3 吉阪道雄：米ノ山の蝶類(II)，兵庫生物 Vol.3 No.3 (1956)

1955年7月10~12日の採集記録。計25種が記録されているが、追加されたものは、シロ千ヨウ科1種、タテハ千ヨウ科3種、テング千ヨウ科1種、シジミ千ヨウ科3種である。

- 4 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録，兵庫生物 Vol.3 No.4 (1958)
セセリチョウ科16種、アゲハチョウ科11種、シロチョウ科8種が記録されている。
- 5 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(2)，兵庫生物 Vol.3 No.5 (1959)
ウラギンシジミ科1種、シジミチョウ科33種が記録されている。
- 6 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(3)，兵庫生物 Vol.4 No.1 (1960)
この資料は焼失したので、詳細は次回にゆずるが、タテハチョウ科、ジャノメチョウ科など43種が記録されている。
- 7 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(4)，兵庫生物 Vol.5 No.1 (1965)
セセリチョウ科、シジミチョウ科、タテハチョウ科、ジャノメチョウ科、各1種を追加、目録合計116種、そのほか、偶産種と思われるものなど19種があげられている。
- 8 中尾淳三：兵庫県北部蝶相，VIOIRA Vol.3 (1957)
四季別に、アゲハチョウ科11種、シロチョウ科8種、タテハチョウ科25種、マダラチョウ科2種、テングチョウ科1種、ジャノメチョウ科10種、シジミチョウ科26種があげられている。
- 9 辻 啓介：扇ノ山の蝶相(第1報)，兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)
アゲハチョウ科6種、シロチョウ科4種、マダラチョウ科1種、ジャノメチョウ科7種、タテハチョウ科17種、シジミチョウ科13種、セセリチョウ科6種。
- 10 辻 啓介：扇ノ山の蝶相(第2報)，兵庫農大生物研究部誌 No.2 (1961)
アゲハチョウ科2種、シロチョウ科1種、テングチョウ科1種、ジャノメチョウ科1種、タテハチョウ科2種、シジミチョウ科3種、セセリチョウ科3種。
- 11 辻 啓介：扇ノ山の蝶相(第3報)，兵庫農大生物研究部誌 No.3 (1963)
アゲハチョウ科1種、シジミチョウ科3種。

ガ亜目

- 1 山本壽丸：米ノ山の蛾類について(第1報)，兵庫生物 Vol.3 No.1-2 (1955)
1954年7月21~24日および8月22~24日、地藏堂付近での灯火採集のまとめである。ヒトリガ科12種、ヤカ科74種、ドクガ科6種、スズメガ科2種、トカリバ科5種、オビガ科1種、シャチホコガ科17種、シャクガ科77種、ヤママユガ科1種、ツバメガ科3種、ボクトウガ科1種、カレハガ科2種、イラガ科2種、マダラガ科2種、イカリモンガ科1種、カギバガ科8種。

2 山本義丸：氷ノ山の蜘蛛について(第2報). 兵庫生物 Vol.3 No.3(1956)

1955年8月16~19日、9月23~25日、前年と同様の場所での灯火採集の結果、追加されたもの、ヒトリガ科1種、ヤガ科53種、ドクガ科3種、スズメガ科5種、オビガ科1種、シャチホコガ科8種、シャクガ科18種、ツバメガ科1種、カレハガ科1種、イラガ科1種、カギバガ科2種、スカシバガ科1種、メイガ科6種、ニジユウシトリバガ科1種。

3 山本義丸：氷ノ山の蜘蛛について(第3報). 兵庫生物 Vol.3 No.4(1958)

1956年7月6~7日、8月10~13日、1957年7月21~24日の3回の採集結果であるが、最後の回は横行溪谷で採集した結果、追加されたもの、ヒトリガ科3種、ヤガ科25種、スズメガ科1種、トカリバ科5種、シャチホコガ科9種、シャクガ科30種、カイコガ科1種、イラガ科4種、カレハガ科1種、カギバガ科4種、スカシバガ科1種、メイガ科36種。

4 山本義丸：氷ノ山の蜘蛛について(補遺). 兵庫生物 Vol.3 No.5(1959)

その後の追加種で、トラガ科2種、ヤガ科9種、ドクガ科2種、シャチホコガ科1種、シャクガ科13種、メイガ科2種、コウモリガ科1種、合計464種である。

5 畑中 照：扇ノ山の蛾. 兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)

スガ科1種、ハマキガ科1種、メイガ科9種、シャクガ科6種、シャチホコガ科2種、ヤガ科11種。

6 遠山・遊磨・松本：兵庫県の蛾(I). きりりはむし Vol.4 No.1~2 (1975)

シャチホコガ科80種(内、51種に但馬の地名を記載)。

7 遠山・遊磨・松本：兵庫県の蛾(II). きりりはむし Vol.4 No.1~2 (1975)

スズメガ科38種(内、17種に但馬の地名を記載)。

鞘翅目

1 高橋寿郎：兵庫県産糞虫類に就いて(第1報). 兵庫生物 Vol.2 No.4~5(1954)

コガネムシ科ダイコクコガネ亜科24種が記載されており、そのうち産地として但馬の地名が記されているものは9種である。なお、参考文献の中に、北村直明、「兵庫県出石郡神美村で採集された蝶とコガネムシ」、昆虫界、Vol.44(1937)があげられているが、私はこの文献にはまだお目にかかっていない。

2 高橋寿郎：兵庫県のコガネムシ. 兵庫生物 Vol.5 No.3~4 (1967)

クワガタムシ科13種(内、4種に氷ノ山、扇ノ山の記載)、コブスジコガネ科2種(内、1種に扇ノ山の記載)、センテコガネ科3種(

内、2種に氷ノ山、扇ノ山の記載)、コガネムシ科125種(内、10種に氷ノ山、扇ノ山の記載)。

3 高橋寿郎：兵庫県のコガネムシ・訂正並びに追加。兵庫生物 Vol.5 No.5 (1968)

前資料ツヤムネマゲソコガネの原産地「兵庫」を「九州豊原」に訂正。住吉川で採集されたヤマトケシマゲソコガネを追加。

4 高橋寿郎：兵庫県産テントウムシ類。兵庫生物 Vol.3 No.4 (1958)

テントウムシ科29種(内、14種に氷ノ山、大久保、福定などの地名があげられている)。

5 高橋寿郎：兵庫県産テントウムシ類(第2報)。兵庫生物 Vol.4 No.2 (1961)

前資料に追加7種(内、3種に氷ノ山、香住町の記載)。学名変更1種。産地追加9種。

6 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(I)。兵庫生物 Vol.5 No.3-4 (1967)

兵庫県産ハムシ相の研究史として74点の文献をあげ、ハムシ科7種(内、2種に氷ノ山の記載)。

7 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(II)。兵庫生物 Vol.5 No.5 (1968)

ハムシ科65種(内、39種に但馬の地名が記載)。

8 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(III)。兵庫生物 Vol.6 No.1 (1969)

ハムシ亜科16種(内、13種に但馬の地名が記載)。

9 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(IV)。兵庫生物 Vol.6 No.2 (1970)

ヒゲナガハムシ亜科44種(内、32種に但馬の地名が記載)。

10 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(V)。兵庫生物 Vol.6 No.3 (1972)

トビハムシ亜科83種(内、28種に但馬の地名が記載)。

11 高橋寿郎：兵庫県のハムシ(VI)。兵庫生物 Vol.6 No.4 (1973)

トゲハムシ亜科4種(内、3種に但馬の地名が記載)。カメノコハムシ亜科11種(内、7種に但馬の地名が記載)。モモグロチゼツツハムシ、ツシマアシナガハムシ、クロタマノミハムシ、ミヤタヤゲミトビハムシ、ヒメカクムネトビハムシの5種追加。

12 高橋寿郎：兵庫県産カミキリモドキ科。兵庫生物 Vol.4 No.3-4 (1962)

カミキリモドキ科15種(内、10種に但馬の地名が記載)。

13 高橋寿郎：兵庫県産鞘翅類。兵庫生物 Vol.4 No.5 (1964)

ジョウカイモドキ科3種(内、2種に生野の記載)。ホタルモドキ科2種、ベニホタル科18種(内、10種に氷ノ山、扇ノ山の記載)、ホタル科8種(内、5種に但馬の地名が記載)、ジョウカイボン科(内、3種に氷ノ山の記載)。

14 高橋寿郎：兵庫県のカミキリムシ類(第1報)。兵庫生物 Vol.4 No.2 (1961)

カミキリムシ科94種(内、57種に但馬の地名が記載)。

- 15 高橋寿郎：兵庫県のカミキリムシ類（第2報）. 兵庫生物 Vol.4 No.5 (1964)
カミキリムシ科フトカミキリ亜科94種（内、58種に但馬の地名が記載）、および17種（内、16種に扇ノ山の記載）.
- 16 辻 啓介：兵庫県米ノ山のカミキリムシ. 兵庫生物 Vol.6 No.3 (1972)
カミキリムシ科121種をまとめたものである.
- 17 辻 啓介：兵庫県における甲虫の分布（第1報）. 兵庫生物 Vol.5 No.5 (1968)
コガネムシ科3種の追加記録、ハナノミ科10種（いずれも扇ノ山）、カミキリムシ科、扇ノ山、米ノ山、多紀郡、畜水の調査による訂正、追加など.
- 18 高橋寿郎：米ノ山の甲虫相. 兵庫生物 Vol.5 No.2 (1966)
米ノ山の甲虫相の概略と注目すべき種について概説されている.
- 19 辻 啓介：兵庫県における甲虫の分布（第2報）. 兵庫生物 Vol.6 No.2 (1970)
タマムシ科29種（内、16種に米ノ山、扇ノ山の記載）.
- 20 辻 啓介・畑中 照：1972年度米ノ山カミキリ採集記録. きやりはむし Vol.1 No.1-2 (1972)
5月上旬、下旬、6月中旬、7月下旬の採集記録、米ノ山未記録種23種を追加、米ノ山よりもち帰った枯木から脱出したカミキリとして5種を記録.
- 21 大倉幸彦・遊磨正秀：米ノ山および赤面における天牛採集記録. きやりはむし Vol.3 No.1 (1974)
米ノ山のカミキリ17種が記録されている.
- 22 畑中 照：兵庫県産ゾウムシ類の記録（2）. きやりはむし Vol.4 No.1-2 (1975)
ゾウムシ科51種（内、34種に米ノ山、扇ノ山の記載）.
- 23 辻 啓介：兵庫県のカミキリ. 月刊むし No.10 (1972)
米ノ山および扇ノ山のカミキリについての概説.
- 24 畑中 照：兵庫県産オトシアミ類. きやりはむし Vol.3 No.2 (1975)
33種が記録されているそうであるが、まだ見えていない.
- 25 辻 啓介：兵庫県産オトシアミ産地追記. きやりはむし Vol.4 No.1-2 (1975)
オトシアミ科10種（内、8種に米ノ山、扇ノ山の記載）.
- 26 鈴木清明：扇ノ山のゾウムシ類. 兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)
ミツギリゾウムシ科1種、ゾウムシ科24種、ヒゲナガゾウムシ科5種.
- 27 辻 啓介：扇ノ山のハナノミについて. 兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)
ハナノミ科7種、ほかにベニボタル科5種、ホタル科5種の記録がある.
- 28 辻 啓介・多田 沼二：扇ノ山のカミキリムシについて. 兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)
カミキリムシ科52種.

- 29 湯浅浩史：扇ノ山のコガネムシ類（第1報） 兵庫農大生物研究部誌 No.1 (1960)
セシキコガネ科1種、コガネムシ科35種。
- 30 湯浅浩史：扇ノ山のコガネムシ類（第2報） 兵庫農大生物研究部誌 No.2 (1961)
コガネムシ科9種。
- 31 辻 啓介：扇ノ山のガキリムシについて（第2報） 兵庫農大生物研究部誌 No.2 (1961)
ガキリムシ科訂正8種、追加54種。
- 32 湯浅浩史：扇ノ山のコガネムシ類（第3報） 兵庫農大生物研究部誌 No.3 (1963)
コブスジコガネ科1種、コガネムシ科9種。
- 33 辻 啓介：但馬扇ノ山甲虫目録(1) 兵庫農大生物研究 誌 No.3 (1963)
ナガヒラタムシ科1種、ハンミョウ科3種、ミズスマシ科1種、
セシキムシ科1種、エンムシ科2種、シデムシ科4種、テオキノ
コムシ科7種、マルハナノミ科1種、ハネカクシ科27種、クワガタ
ムシ科10種、ヒラタドロムシ科1種、ナガハナノミ科3種、クシヒ
ゲムシ科2種、タマムシ科12種、コメツキムシ科31種、ヒゲブトコ
メツキ科1種、ホタル科5種、コメツキダマシ科9種、ジヨウカイ
ボン科8種、ベニホタル科14種、コクヌスト科2種、ケシキスイ科
11種、ヒラタムシ科2種、ムクゲキスイ科1種、コメツキモドキ科
3種、オオキノコムシ科14種、テントウムシ科10種、テントウダマ
シ科2種、ミジンムシダマシ科1種、コキノコムシ科2種、ホソカ
タムシ科3種、ゴミムシダマシ科27種、ハムシダマシ科4種、クチ
キムシ科7種、クチキムシダマシ科1種、アカハネムシ科8種、ク
ビホソムシ科1種、キノコムシダマシ科1種、ナガクチキムシ科13
種、ハナノミ科1種追加、オオハナノミ科1種、クビナガムシ科1
種、ガキリモドキ科6種、イッカクチユウ科1種、ガキリムシ
科5種追加、ハムシ科30種、オトシブミ科7種追加、ゾウムシ科12
種追加、ヒゲナガゾウムシ科2種追加、ナガキクイムシ科1種、ゲ
ンゴロウ科1種、ガムシ科1種、ホソドロムシ科1種、ツツキノコ
ムシ科1種、キクイムシ科2種。
- 34 岸田剛二：扇ノ山の歩行虫(1) 兵庫農大生物研究部誌 No.3 (1963)
31種。